

# AKATSUKI GAKUEN

## Newsletter

暁学園報

vol.256

Spring 2024

春号

祝  
卒業・進級



# 新たなステージへ。



卒業生へのメッセージ

〈寄稿〉能登半島地震を受けて

# STEAMの“A”

## ～天橋立物語～

喜岡  
渉

暁学園理事長



京都府の天橋立は、広島県の宮島、宮城県の松島と並ぶ日本三景の一つとして、古来より人々を魅了し続けてきました。天橋立は、宮津市江尻より対岸の文珠に長さ約3.6km、幅約20m~170mで延びたサンドスピット(砂嘴)と呼ばれる砂州状の地形で、日本海から侵入する波浪による漂砂が長年にわたり堆積して形成されたものです。周辺の河川から供給される土砂量は年々減少傾向にあり、加えて海岸に設置された人工構造物により漂砂が遮られたことなどにより、飛龍に例えられる独特の景観も一時は砂浜がやせ細り、天橋立の存在そのものが危ぶまれる危機的状況にありました。

この天橋立の復元計画全体の責任者で私の大学時代の恩師でもある故岩垣先生が執筆された本のタイトルが標題の「天橋立物語」です。保全計画の解説書としては工学的な知見を記したところは少なく、わずかに最後の章で述べられているに過ぎません。砂浜の回復にはサンドバイパス工法という、過剰に堆積した砂を再び砂嘴の付け根付近に投入する、いわば砂のリサイクル工法が使われています。本には記載されていませんが、この工法の採用に際し、砂やシルトの凝集・沈殿・巻上げ・輸送の把握には物理・化学・生物プロセスの知識を、波と流れの観測には超音波やレーダー型の流速計、波向きの把握には合成開口レーダー衛星SAR画像の解析結果をそれぞれ用いています。また、砂を輸送する波・流れの解析には数学モデルを用いた数値シミュレーションを、海底の微地形の把握にはマルチビーム深浅測量の技術が、砂浜回復後の景観評価には景観工学が、それぞれ使われています。すなわちSTEAM (Science Technology Engineering Arts Mathematics)の知識を全て使います。

雪舟の描いた有名な天橋立図には、外海の与謝海にある冠島と沓島が絵の中心付近にあり、本来ならば内海の阿蘇海周辺を描いた構図には入らないことから、天橋立と籠宮と海の奥宮とされる冠島・沓島は一体となって人々の信仰の対象であったと推察されます。天橋立は景観美に加えて人々の抱く神秘性が大きな魅力になっており、真の保全には信仰的民俗的な保全も必要です。この神秘性は通常のSTEAMだけでは解き明かせないという思いから、天橋立物語の大半は天橋立の発芽と砂嘴の成長の始まりとされる縄文後期からの丹後の国や古代～中世の大和と京都の文化と歴史にあてられています。

## ポストコロナで卒業していく皆さんへ

卒業生の皆さん、卒業、おめでとうございます。

私たち教職員にとっても、皆さんとともに過ごした4年間は、コロナ禍とともに乗り切ったという点で忘れないものとなっています。

皆さんは、入学式が中止になり、4月のはじめに一日だけ登校し、その後は、履修登録も、授業も、全てネットを介してという異例の大学生活のスタートでした。6月からは、少しずつ対面授業が開始されたとはいえ、自粛要請が繰り返されたため、大学生らしい議論の場たるゼミナールや飲み会はその活動が大幅に制限されました。大学生活の最初にほぼ2年間、リアルな学生生活の空白を経験したがゆえに、友達づくりは十分にできなかつたかもしれません。

皆さんは、人口減少時代しか知ることのない第一期生です。しかも、コロナ禍の中で大学生活を送ったという特異な経験をしました。一気にデジタル化が進んだからこそ、十分実現できなかった対面による議論の必要性やリアルな友達の重要性も同時に学んでくれたものと信じます。

だからこそ、これから社会に出て、DXの波の中でも、あえて、対面により会話を積み重ねることを心掛けてほしいと思います。

「はじめに言葉ありき」なのです。



四日市大学 学長

**岩崎 恭典**

## 先の見えない世界に飛び出すみなさんへ

2024年は元日の能登半島地震で、先に何が起こるかわからないという容赦ない現実を象徴するスタートになりました。思えばみなさんの大学生活のスタートも新型コロナウイルス感染症の国内での流行が始まり、あつという間に世界的なパンデミックになっていきました。入学式ができない事態になり、授業はオンラインで行われました。友達関係をつくる重要な期間を失ったことで、人との交わりや対話ができませんでした。さらに臨地実習も思うようにできず、医療系学生として必要なトレーニングが足りないのではないかと言う不安を感じている人も少なくないかも知れません。

人生100年、職業人生50年、学生時代はその最初の4年間です。みなさんの医療者人生の中で見れば、最初のごく一部分に過ぎません。これから始まる職業人としての人生を俯瞰的に想像し、これから医療の現場に入つてからの成長プランをイメージしましょう。但し、必ず予期せぬことが起こります。そんな時は力強く、ある時はしなやかに困難を切り抜けましょう。先が見えにくい中、コロナに振り回されながらも学び続けたこの4年間はこれから必ず大きな意味を持ってきます。時々思い出しながら、またこの経験を語りながら成長されることを期待しています。



四日市看護医療大学 学長

**柴田 英治**

# 「常に備えよ」～不確実性の高まった時代に～



暁高等学校 校長

**小林 豊昌**

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんと共に過ごした3年間は本当に大きな出来事のあった3年間でした。

世界は今から4年前、新型コロナウイルス感染拡大のため騒然となりました。多くの日常生活が制限されました。そしてそのコロナ禍の終息がほの見えてきた2年前、ウクライナではロシアとの戦争が勃発しました。昨年には中東でも武力衝突が起り、黒海や紅海での自由な航行が困難になっています。また、今年元旦のタベ、日本では能登半島地震が起り、多くの人が犠牲になりました。今なお多くの人々が、この地震で厳しい生活を余儀なくされています。

高校の世界史の授業で、「人類の歴史は、疫病の流行や地震津波などの天災、戦争等を起因として転換期をむかえることが多い」と習った記憶があります。これらはこの数年間にわたくしたちが体験した出来事ばかりです。

現代は不確実性の高まった時代だと言われています。物理学者の寺田寅彦は、「天災は忘れたる頃来(きた)る」という内容の言葉を常常話していたそうです。「わたくしたちが平和な日常生活を当たり前のように感じて危機に対する意識が薄くなった時、不意打ちのように危機が迫ってくる。」寺田寅彦はこの言葉によって、「だから常に備えよ」と人々に伝えたかったのだと思います。

高校を卒業され、それぞれの新しいステージに進まれる皆さんには、この「常に備えよ」という思いを忘れず、新しい時代の先駆けとなって活躍してほしいと願っています。

新しいステージでの皆さんのご活躍を、校長として心より祈念しています。

## あなたの心の支えとなり、よりどころとなる「母校」

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私はこの4月に暁中高に赴任し、あなた方と会って、暁中高生の純真さ、誠実さ、優しさ、そして真摯な態度に感動を覚えたことが何度もありました。特段、6年生のあなた方とはわずか一年の付き合いであることから5月の遠足バスで、行きに2クラス、帰りに2クラスで延べ5時間立ちっぱなしで校長の特別授業を行いました。「アハ体験」やチームで協力して「気づき」や「ひらめき」の体験を楽しんでくれ、私を受け入れてくれたことを鮮明に覚えています。そんな皆さんと出会えたことに心から感謝をしています。

卒業生の皆さん、学校は卒業しても心の支えとなる場所であるべきものです。将来あなたが生きるために疲れを覚えた時、前に進もうとする心が鈍った時、また、嬉しい報告ができる時、是非暁中高を訪ねてください。歴史に彩られ緑に恵まれた萱生の丘、グラウンド、体育館、テニスコート、図書館、ベンチに佇んだ中庭、6年間学んだ教室、目に映る風景の中にきっとあなたの6年間の記憶がよみがえることでしょう。そうした若いころの記憶が、大人になってからのあなたの「生きる力」になることもあります。その時、学校は本来の学校、つまり、この学校に学び卒業をした、あなたの心を支える「母校」になるのだと思います。母校暁中高は、心のよりどころとして、いつもあなたを待っています。

限りない未来と大きな可能性に向かって新たに、力強く「一歩前へ」踏み出す卒業生の皆さんの門出を祝い、あなた方の前途が、幸多く実り豊かになりますことを心から祈ります。



暁中学校・高等学校 校長

**駒木 正清**

# チャレンジ精神を持って一歩一歩前進を



暁小学校 校長

あきら

相馬 哲

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

6年間の思い出が詰まったこの校舎ともいよいよお別れですね。皆さんはこの6年間で、心も体も大きく成長しました。この自分の成長を心から喜んでください。そして、ご家族や多くの先生方に見守られて今があることを決して忘れないでください。

今年度はコロナの制限がなくなり、いろいろな行事が形を変えて実施された一年でした。その中で皆さんは、暁小学校の最高学年として立派にその役割を果たしてくれました。本当によく頑張りました。ありがとうございます。

これから皆さんは希望を胸に中学校へ進学します。皆さんの中には、新たな人との出会いや出来事に少し不安を抱いている人がいるかもしれません。それでも、ぜひ自分のペースでいろいろな人と関わり、いろいろなことに挑戦してみてください。そこにはきっと多くの学びや経験できることが待っていると思います。これから時代は答えのない時代です。自らの力で答えを見出していくかなければなりません。そうした時にこれから経験するすべてのことが必ずや生きてきます。ここからです。これから皆さんの個性が大きく花開くときなのです。ぜひ、チャレンジ精神を持って一歩一歩着実に歩みを進めていてください。

最後に、皆さんの未来が輝かしいものになることを心から祈っています。

## 「心に 太陽を！」

らいおん組のみなさん、ご卒園おめでとうございます。

みなさんは、今まで、暁幼稚園の大きいお兄さんやお姉さんとして、小さい組さんの世話をたくさんしてきました。みんなとっても喜んでいました。みなさんのおかけで、暁幼稚園の友達も先生もみんな、とっても気持ちよく過ごすことができました。ありがとうございました。

みなさんは、これから小学校へ入学して、新しい友達と出会ったり、今まで知らなかったことをはじめて経験したり、なかなか乗り越えられない壁にぶつかったりすることもあると思います。でも、どんな時でも、くよくよしたり泣いたりせずに、笑顔を忘れずにたくましく前へ進んでいってください。いつも心の中に太陽があるように、温かい優しい言葉で、友達や周りの人に話しかけてみましょう。きっと、新しい出会いが始まることでしょう。一人では乗り越えられない壁も、友達と力を合わせることで乗り越えられることもたくさんあるのではないかでしょうか。

### 「心に太陽を持て」

心に太陽を持て。

あらしがふこうと、ふぶきがこようと、  
天には黒くも、地には争いが絶えなかろうと、  
いつも、心に太陽を持て。（…後略）

ドイツの詩人、ツェーザル・フライシュレン 作  
山本有三 編「心に太陽を持て」（改定版より）



暁幼稚園 園長

近藤まり

みなさんのご活躍を心よりお祈りしています。

# 能登半島地震を受けて

～われわれが学ぶこと、すべきこと～

四日市大学環境情報学部教授  
四日市東日本大震災支援の会代表

鬼頭 浩文

2024年1月1日、能登半島を大きな地震が襲いました。過疎化が進む奥能登は、高齢化が進んでいます。高齢化が進む地域においては、耐震強度が十分でない家屋が多く、今回の地震においても全壊・大規模半壊の家屋が多くなってしまいました。自治体は、助成金を出して耐震診断や耐震工事を援助する政策を推し進めようとしていますが、子育て世代が都市部に移り住むようになり、残された高齢者は耐震化に消極的な場合が多いです。

そんな能登を襲った地震、倒壊した家屋が道路をふさぎ、もともと貧弱な道路網が各所で通行止めになり、緊急車両が通ることも困難になりました。さらに、大津波警報が発令され、家族やご近所の方が倒壊した家屋に挟まれたままであることを知りながら避難せざるを得ない状況もあったようです。翌日になって、大規模火災や倒壊した家屋の多さが分かり始め、災害対応の困難さを予想させるシビアな状況であることが明らかになっていきました。

倒壊した家屋から救い出されて助かる人もいましたが、日ごとに犠牲者の数が増大していく中で、避難所の劣悪な状況が伝えられるようになっていきます。災害関連死が心配される状況に追い込まれて困難な生活を送る高齢者の様子も伝えられています。

この能登半島地震を受けて、四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、81回目の活動として、



完全に倒壊した建物

2024年1月13日(土)に、先遣隊として4名で石川県を訪問しました。われわれは、チーム四日市で、避難所・仮設住宅・復興住宅と、復興に向けての何年もの間、奥能登に寄り添う活動を続けていく計画です。さしあたって、輪島市の社会福祉協議会からの要請を受け、炊き出しなどの避難所支援を2月上旬から行うことになりました。雨や雪が続く能登の寒い冬に、温かい食事と、少しの癒しを届けられるよう、頑張りたいと思っています。

## 【四日市東日本大震災支援の会】

この会は、2011年4月に四日市大学の学生・教職員が立ち上げ、被災地支援を行っています。東北・熊本などで避難所・仮設住宅と生活の場が移動するたびに新しい課題に直面する被災者の皆さんに寄り添い、片付けの段階、避難所支援、仮設住宅応援、ほかにも、さまざまなイベントのお手伝いをしてきました。暁学園の看護医療大、高校、中学からも参加者が多くいます。



大丈夫そうでも危険と判定された家

## 四日市看護医療大学

# 電子テキスト導入への期待

昨今、小学校や中学校等をはじめとする学校現場では、タブレットなどの電子端末を利用した学修が展開されています。本学臨床検査学科では電子テキストの活用を始めていましたが、看護学科においても、2024年度の新入生からBYOD(Bring Your Own Device)を推進し、電子テキストを導入する予定です。



電子テキストは、学生が重たいテキストを持ち歩かなくても、電子端末があれば気軽にどこでも閲覧できます。また、動画コンテンツが組み込まれている場合には、動画再生も可能ですので、看護医療技術の習得も進みます。さらに、複数のテキストから横断的に検索することができるため、様々な情報(知識)を集めることができます。学生がこうした機能をうまく利用することで、主体的に学ぶ力が育つことを期待しています。

一方、学生に電子テキストを使用させるということは、教員自身も電子テキストを使用するということになります。教員の多くは、紙書籍に長年慣れ親しんでいますので、紙への愛着を持っています。今までやってきたことを変えることは、心配や不安がありますが、電子テキスト導入は、教員の講義スタイルや講義内容を見直すチャンスと捉え、教育の質向上に寄与することを期待しています。

## 四日市看護医療大学大学院 看護医療学研究科 「臨床検査学専攻」(修士課程)開設



2023年9月、文部科学省より臨床検査学専攻(修士課程)の設置が認可され、2024年4月より臨床検査学分野においても大学院教育がスタートすることとなりました。開設準備にお力添えいただきました関係者各位には心より感謝申し上げます。

本専攻は「病因解析検査学分野」と「病態機能検査学分野」の2分野から臨床検査学を牽引する研究者、教育者、実践者を育成することを目標としています。学部教育、医療現場業務を基盤に、日進月歩の最新医療技術に対応でき、また新たな知見や技術を生み出す柔軟な思考力、想像力を活かし臨床検査学の開拓と発展に貢献できる人材を育成してまいります。

また、本学の特色を活かし、看護医療学研究科に併設されている看護学専攻と連携することで、他分野研究者との共同研究も行うことができ、今後、臨床検査技師の新たな活躍の場となる「在宅医療」領域の研究にも取り組むことが可能なカリキュラムを編成しています。長期履修制度や昼夜間開講、リモート講義を導入し、社会人の方々も学びやすい学修環境も整備しています。

次世代の臨床検査学分野を担う研究者、教育者、実践者を多数輩出できるよう教職員一同努力していく所存です。

## 暁高等学校

# 高大連携の推進

暁高等学校では、同じ学園の四日市大学、四日市看護医療大学との連携活動を推進してきました。2023年度、これまでの活動は次の通りです。



### 四日市大学との連携

7/5(水)・6(木)・10(月)・11(火)の4日間、大学研究室訪問。探究授業の一環として四日市大学の研究室を訪問し、生徒がそれぞれの課題のテーマについて専門の先生方から意見を伺いました。



### 四日市看護医療大学との連携

#### ● 6/13(火)

臨床検査学科の先生による出前授業。臨床検査領域の学びと、パルスオキシメーターを使った演習を行いました。



#### ● 6/19(月)

看護学科の先生による出前授業。浮腫についての講義と、ふくらはぎの浮腫の観察実習を行いました。



#### ● 7/6(木)

大学講座体験。3年生が大学に行き、看護学科と臨床検査学科の演習を体験しました。



#### ● 10/4(水)

分野別進路ガイダンス。大学の柴田学長に「医療を目指す人たちへ」というテーマでご講演をいただきました。

また、10/17(火)にも臨床検査学科の先生による出前授業を行い、本年3月にも出前授業、演習体験を実施予定です。

今後も大学を持つ学園の高校であるメリットを最大限に活用した教育活動を行っていく予定です。



## 暁小学校

# 復活「マーチングバンド(MB)」



暁小学校におけるマーチングバンド(以下MB)は、昭和39年11月1日、学園「記念祭」(学園体育祭)に出演したことが始まりとなります。前年度の卒業記念品として、数点の打楽器が寄贈され、その翌年鼓笛隊が結成されました。その後、金管楽器やユニフォーム導入、「四日市祭」への出演等、様々な変遷を経て現在に至っています。暁小学校にとって、伝統の活動の一つとなっています。

2020年からのコロナ禍は、暁小学校のMBに大きな陰を落とすこととなりました。2021年、一度は再開の準備に入ったものの、2度目の学校休業となり、再度活動が中断されました。コロナ禍は、文科省からの歌や演奏活動の自粛要請など、まったくMBの活動の出来ない期間が約2年以上となりました。

2023年5月、新型コロナウイルスが5類に移行したことから、リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの演奏が数年ぶりに音楽の時間にもどってきました。

このことを受け、来秋の運動会での発表に向けて、1月からMB練習が再開されることになりました。活動に取り組む4年生も5年生も初めての経験で、苦労することもあると思いますが、この経験が子ども達にとって有意義なものになることを願っています。

## 暁幼稚園

# スポーツ教室 楽しいね

2023年4月より、新たに年長児向けのスポーツ教室を開催しています。この教室は、子どもたちが、サッカーをはじめいろいろな運動・スポーツに触れ、楽しみながら体を動かすことで、体力・運動能力・平衡感覚などが向上することをねらいとしています。また、友達と一緒に活動するなかで、仲間と力を合わせて成功させること、最後まで粘り強く頑張ることなどを経験することで、心の成長も目的としています。

指導は、大学のサッカーチームの選手たちと園の職員で行っています。サッカーチームの選手の皆さんにはいつも温かく接してくれるので、子どもたちも大好きです。スポーツ教室終了後も、一緒におやつを食べたり遊んだりしてくれます。

スポーツ教室を通して、一人ひとりの「できる」を増やし自信を持たせることで、自尊感情を高め、子どもたちが何にでも前向きにチャレンジしようとする姿勢が育ってくれることを願っています。



# 四日市大学

## 第20回記念四日市大学 留学生日本語弁論大会開催

2023年12月16日、本学において「第20回記念四日市大学留学生日本語弁論大会」が開催されました。これは、国際交流と留学生の日本語能力向上を目的に本学が主催し、四日市市、四日市北ロータリークラブ、国際ソロプロチミスト三重・北のご後援をいただき毎年開催しているものです。

当日は、学内の予選を通過した本学の学生6名に加え、三重大学、鈴鹿大学からも一人ずつ出場し、留学生活で感じたことなどを、身振り手振りを交えながらスピーチしました。最高賞である四日市大学学長賞は、「権力者の欲望」をテーマにスピーチした本学総合政策学部2年生、インドネシア出身のロナルアフリアディさんが受賞しました。

また、第20回記念として、本学で永く留学生指導に携わられた四日市大学名誉教授である西牧義江先生への功労賞授与式も実施されました。西牧名誉教授からは、「今日スピーチをしてくれた留学生の一言一句に心を打たれた。これから色々なことがあると思うが、人として、人間としてこれから何をすべきか、将来何を選ばなければならないのか、何が一番幸せなのかを考えて欲しい。」と、今を生きる留学生たちに強い励ましのお言葉をいただきました。



ロナル アフリアディさん



右から岩崎学長、西牧名誉教授



# 四日市看護医療大学



## 4年ぶりの海外研修

～アメリカ・カリフォルニア州ロングビーチ市に行って来ました～

2023年8月6日(日)から8月13日(日)までの1週間、海外研修を実施しました。新型コロナウイルス感染症の流行以来4年ぶりの実施となり、2年生13名と引率教員2名がアメリカのカリフォルニア州立大学ロングビーチ校へ研修に行って来ました。

研修内容は、午前は日常的なコミュニケーションや医療現場におけるコミュニケーションスキルを中心とした語学プログラム、午後は特別プログラムとして医療を中心としたもので、MRIに携わる技師や看護師による講演等がありました。また大学内の看護学部や健康管理センターを見学させていただき、最新の設備や教材に触れ、貴重な経験をすることができました。学生たちは積極的に質問するなど、とても意欲的に活動していました。

今年度は海外研修開始以来、初めて研修期間が1週間に短縮されたため、限られた時間内で各自が工夫し、思い思いの自由時間を過ごしていました。その中でも、バスを利用してビーチ散策や市内観光、ディズニーランド等へ行ったことは学生たちの良い思い出になったことでしょう。海外でのバス乗車に最初は苦労していましたが、次第に慣れていき、生活文化を肌で感じる事ができていました。現地の方から声をかけられる場面もあり、英語でコミュニケーションを取る事の楽しさを経験した様子でした。

この場を借りて、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の先生方や関係者の皆さまに深く感謝いたします。研修を通して、アメリカの医療現場を知り、海外の生活文化を実際に経験し、また共同生活で得た経験は今後の人生においてすばらしい糧となることでしょう。

また2024年1月9日(火)には、来年度の海外研修に向けて説明会を開催しました。新2年生を対象に看護学科、臨床検査学科合わせて50名程が集まりました。2024年8月の研修日程や概要の説明、カーケ教授からは研修先や大学寮の設備、自由時間の過ごし方等の話がありました。今年度研修に参加した先輩からすでに話を聞き、興味を持った学生が非常に多いでした。来年度もたくさんの学生が海外研修に参加し、素晴らしい経験を積んでくれることを期待しています。



# 暁高等学校

## 吹奏楽部 EXPASA御在所でミニコンサート ～暁学園は地域と共に!EXPASA13周年感謝祭で演奏～



EXPASA御在所は開業13周年を記念し、9月18日(月・祝)に「EXPASA御在所13周年感謝祭」を開催しました。当日は、午前と午後に1回ずつ、吹奏楽部によるミニコンサートが催され、地元の方やサービスエリアに立ち寄られた方々など、多くの観客の方が聴きに来られました。はじめのうちはお客様の前で少し緊張していましたが、部長も観衆の前で堂々と挨拶を行い、馴染みのある曲も演奏し、皆様に楽しんでいただきました。

また、卒業生である四日市市観光交流課の中村さんによるB-1グランプリの紹介が行われたり、こにゅうどうくんも応援にかけつけたりするなど、好評のうちにあっという間の30分が終わりました。吹奏楽部は、TBS「下剋上球児」へのエキストラ出演や、地域の夏祭りへの参加など、地元に密着した活動を行っています。

## 幼高連携 どんぐり拾い体験 ～暁幼稚園よつば組の皆さんが 暁高校のグラウンドでどんぐり拾い～

10月12日(木)に、暁幼稚園のよつば組の14人が、どんぐり拾い体験をしにライオン号に乗って暁高校に来ました。当日の高校は中間試験3日目にあたり、グラウンドでのクラブ活動もありませんので、学校開放を行いました。

爽やかな秋晴れの空のもと、園児たちはまるで宝がしのように、高校の小径や砂場に落ちているドングリやクヌギの実を見つけては大はしゃぎでした。「こんなに取れたよ」と言って先生たちに見せにきたり、友だちに見せ合いつっこしたりと、いつもとは違う体験をして楽しんでいました。次回は2月に、お茶会体験でお待ちしています!



# 暁中学校・高等学校

## エコノミクス甲子園三重大大会で優勝!



12月17日(日)、三重県内の高校生が金融経済知識を競う「第18回エコノミクス甲子園(全国高校生金融経済クイズ選手権)三重大大会」が百五銀行本店(津市)で開催されました。県内7校14チーム28人が金融経済に関する筆記問題や早押しクイズなどに挑みました。暁高校(6年制)からは2チーム4名が参加。上位6チームによる決勝ラウンドに進出した5年生の城久徳・吉田有輝(チーム「いとおかし」)ペアが見事優勝の栄冠を手にし、2月に東京で開催される全国大会への出場を決めました。

### “全国大会出場ペアのコメント”

私たちは去年授業で受けた金融セミナーで経済の世界に興味を持ちました。

その後、「公共」の授業や一緒に出場する他のチームの人と一緒に勉強して経済の知識をたくさん学び関心を高めました。そして見事掴んだ全国大会への切符。私たちの実力でどこまで戦えるか全力を尽くして頑張ってきます。

## 金融セミナー

12月11日(月)、野村ホールディングス(株)の酒井賢一様をお招きし、第4学年を対象に「金融セミナー」を実施いたしました。

「自分の将来とお金の話」と題して、

- ①家計管理とライフプランニング
  - ②就職後のライフケースを考える
  - ③自分の考えたライフコースに必要な  
お金の計算
  - ④貯める・殖やす<資産形成>
- の4項目についてお話を伺いました。

友人と意見を交換し合いながらワークシートを使い、自分の未来を見据えた人生設計を行いました。生徒たちにとってはお金の側面から自分の今後を考える良いきっかけになったと思います。

賢い消費者として人生100年時代を生き抜くための術を学んだ貴重な1日となりました。



# 暁小学校

## PTAとの読み聞かせ会を再開



昨年5月にコロナウイルスが5類に移行したことを受け、それまで休止していた「読み聞かせ会」が再開されました。

読み聞かせ会は、図書委員会の児童が中心になって行う会とPTA図書委員の皆様が中心となって行う会があります。

図書委員会の児童は、司書の先生の指導のもと、何回も練習し本番に臨みます。

緊張しながらも、しっかりと朗読することができました。

PTA図書委員の皆様が読み手となる読み聞かせ会は、低、中、高の3回に分けて行われました。それぞれの年齢に合った本が選ばれ、読み聞かせを行いました。

どの回にも、たくさんの児童が集まり、読み手にとっても、会に集まった児童にとっても充実した時間となりました。



## 毛筆競書大会

1月11日(木)、今年度の毛筆競書大会が行われました。暁小学校では、専門の講師の指導により、一年生から毛筆の学習に取り組んでいます。毎年、1月に毛筆競書大会が行われ、子ども達にとってはこの大会で良い作品を仕上げることが一つの目標となっています。

先生からは、「太く、力強く書きましょう。」と大きな目標が掲げられ、学年毎に具体的な目標も伝えられています。例えば3年生には「筆使い・字形に気をつけて書こう」という目標が伝えられています。

当日審査が行われ、クラス毎に入選作品が選定されます。また、クラス代表に選ばれた作品は、「第58回・三泗小・中学校書写展覧会」に出品されました。



# 暁幼稚園

## 四日市看護医療大学による「子育て相談会」

総合学園の強みを活かし、四日市看護医療大学と連携し、12月15日に子育て相談会を開催しました。

当日は、暁幼稚園の保護者の方々のほか、お子さんが暁幼稚園を卒園された保護者の方、これから入園を希望されている保護者の方にも参加していただき、実りある会となりました。

### 【教えていただいたこと(一部)紹介します…】

- 子どもの体の発育には、「リンパ型」「神経型」「一般型」「生殖型」があり、年齢によって発育量が違う。例えば、神経型(脳やせき臓など)は、6歳ぐらいまでに成人の約80%ができてしまう。
- ウイルスを身体の中に入れないためには、手洗いが有効。あわあわ石鹼を推奨するが、水洗いだけでも1/100まで減少する。
- 睡眠時間は、1～3歳は11～12時間程度、3～6歳は10～11時間程度、6～12歳は8～10時間程度と言われている。昼寝の時間は、1.5～3時間ぐらい。目的は疲労回復。昼寝をして夜寝るのが遅くなることはあまり好ましくない。翌日の活動に影響がない程度にしておくのがよい。また、夜、寝る時には、ワントッチデバイス(スマホやテレビのスイッチなど)を枕元に置かない、暗い環境を作ることが大切。規則正しい生活を送るため、夜更かした翌日はいつもより早く寝るようにする。
- 発育(体重や身長)については、個人差があり個性である。他の子と比べることはしなくてよい。母子手帳にある発育曲線のグラフに記録し、カーブがどのように上がっていくかを見ることが大切。もし受診をするなら、発育曲線の記録を持って受診すること。
- 体力をつけるには、その子の好きな遊び、楽しいと思って続けられることを思いきりさせてやることがよいのではないか。一般的には、適度に衝撃のあるスポーツ(ジャンプをするスポーツなど)が骨を強くすると言われている。
- 偏食については、誰でも初めて食べるものは警戒する。まずは、繰り返し舐めさせたり触らせたりして慣れさせることから。子どもの好きな味付け(カレー味、ケチャップ味、マヨネーズ味、ハンバーグソース味等)を工夫する。食事をする時はハッピーな環境(家族と会話をしながら楽しく、親もスマホなどは見ない)を心がける。幼稚園で食べられるのは友だち効果も大きい。少しでも口にできた時は、心から褒めることが大切。



### 参加していただいた先生方

四日市看護医療大学	教 授	二村 良子 先生(母性看護学)
	准教授	別所 史子 先生(小児看護学)
	准教授	増田 由美 先生(小児看護学)
	助 手	馬場 佳理 先生(小児看護学)



ありがとうございました。

## 式典のお知らせ

### 卒業(園)式

〈校種〉	〈日時〉	〈場所〉
四日市大学	3月15日(金)13:30～	都ホテル四日市
四日市看護医療大学	3月10日(日)10:00～	都ホテル四日市
暁高等学校	3月1日(金)10:00～	高校体育館
暁高等学校(6年制)	2月29日(木)10:00～	中高体育館
暁中学校	3月19日(火)9:00～	中高体育館
暁小学校	3月12日(火)10:00～	暁小学校体育館
暁幼稚園	3月18日(月)10:00～	暁幼稚園ホール

### 入学(園)式

〈校種〉	〈日時〉	〈場所〉
四日市大学	4月3日(水)13:30～	四日市市文化会館
四日市看護医療大学	4月2日(火)10:00～	四日市大学3号館
暁高等学校	4月9日(火)10:00～	高校体育館
暁高等学校(6年制)	4月8日(月)10:00～	中高体育館
暁中学校	4月8日(月)13:30～	中高体育館
暁小学校	4月6日(土)10:00～	暁小学校体育館
暁幼稚園	4月10日(水)10:00～	暁幼稚園ホール



[学園報 春号 vol.256]  
発行日 / 2024年2月22日  
発 行 / 学校法人暁学園  
〒512-8538 四日市市萱生町238 TEL 059-337-2345  
学園HP / <https://www.akatsuki.ed.jp>



暁学園公式キャラクター  
アルバちゃん